

B. 各支部から

日本小児保健協会 山梨県支部

前 山梨県小児保健協会支部長

山梨県赤十字血液センター

田 中 均

山梨県小児保健協会は初代会長（昭和56～57年度）の故岩沢 敬先生等によって昭和56年に設立され現在に至っている。第2代会長（昭和58～63年度）が日暮 眞先生、第3代会長（平成1～6年度）が故日野原正幸先生、第4代会長（平成7～12年度）が横山 宏先生（現顧問）、第5代会長（平成13～22年度）は私が担当している。

最近の事業内容は大きく分けて次のようである。

1. 定期総会（年1回春開催）
2. 母子保健研修会（定期総会と同日開催）：記念講演またはシンポジウム
3. 山梨県小児保健学会（年1回冬開催）：一般演題と記念講演
4. 理事会：年4～5回開催
5. 機関誌編集委員会：年2～3回開催
6. 山梨県小児科医会と共催の講演会：年7～8回開催
7. ホームページのUP
8. 小児保健活動に関する強化運動の推進

① 「ノースモーキング・ヘルシーキッズ山梨」をスローガンに禁煙活動に力を入れる（平成15年～）：禁煙教育教材パネル、禁煙グッズ、禁煙関連図書の貸し出し事業や出前講座の実施。山梨県保育大会に禁煙コーナーの設置。

② 山梨はしかゼロ作戦（平成19年～）と称して小児科地方会、小児科医会と協力してシンポジウムの開催、市町村予防接種担当者へ資料の配布、山梨県小児保健協会会長名と山梨県小児科医会会長名の連名で、県福祉保健部健康増進課長に「はしかの予防接種率向上への協力依頼書」を提出など。

機関誌は、昭和58年に当時の第2代会長で山梨医

大教授だった日暮 眞先生（現日本小児保健協会常任理事）の時に第1号が発行され、今年度までに27号を発行した。毎年会員並びに保健所、市町村、図書館や大学図書室などの関係機関や小児保健の全国の支部などに送っている。

現在の会の運営上の問題点は、会員数の伸び悩みと財政の乏しい点である。会員は120～140名位で推移しており、職種は小児科医師、小児歯科医師、大学・看護大学教員、地方自治体保健師、養護教諭、栄養士、保育士などである。構成比率はほぼ均等だが小児科医師の比率が他県に比べて少ない。地方自治体などの職員は退職すると脱会する傾向にあり会員数がなかなか増えない。会費は職種に関係なく1人2,000円であるが全員からの会費徴収が難しく会費収入が伸び悩んでおり、本部からの助成金と機関誌に広告を載せている賛助会員の協力でかろうじて赤字にならない状態で運営している。

最近5年間の講演の演題と講師

	母子保健研修会記念講演	山梨小児保健学会記念講演
平成18年	小児のターミナルステージにおけるケアの問題点 身延山大学教授 池上 要靖先生	今、地域に期待される子どもの食育とは 東京家政学院大学助教授 酒井 治子先生
平成19年	幼児期の発達と環境 武庫川女子大学教授 河合 優年先生	山梨はしかゼロ作戦 シンポジウム； シンポジスト5名
平成20年	健康を取り戻す 蓼科保養学園 小松内科クリニック院長 小松 郁俊先生	生体時計を御存知ですか？ 東京北社会保険病院院長 神山 潤先生
平成21年	発達障害がある子どもをはぐくむ 山形大学医学部教授 横山 浩之先生	児童虐待の現状と課題 東京都児童相談センター 山脇由貴子先生
平成22年	発達障害と子育て環境 山梨大環境遺伝学教授 久保田建夫先生	元気な子を育てる食 山梨大学医学部教授 大山 建司先生

山梨県小児保健協会

〒409-3898 山梨県中央市河東1110

山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座内